

公益財団法人

宮城県国際化協会

MIYAGI INTERNATIONAL ASSOCIATION

倶楽部

MIA

みやぎの多文化な人 宮城県内で活躍している海外出身者をご紹介します。

「特定技能2号」に合格！ 電装の仕事で気仙沼の 漁業を支える



ルオン スアン ホアンさん

ベトナム社会主義共和国出身

石川電装株式会社勤務

気仙沼市在住

—日本に来てどれくらいになりますか。

2016年の10月に日本に来てから8年になりました。出身は首都ハノイ近くのナムディンというところです。気仙沼での生活も長くなったので、すっかり寒さには慣れました。当初は技能実習生として来日し、以来ずっと石川電装で船舶の電機システムに関わる仕事をしています。いわば「船の電気屋さん」です。電気関係の仕事に携わったことがなかったので、実際仕事を始めてその複雑さに驚きましたが、でもそれが新鮮で楽しいと感じました。

—どのような仕事を担当しているのですか。

漁業などに使われる船舶には、発電所・変電所の働きをする電機システムが搭載され、そこから船の運転、漁、船員に必要な電気が、電路という電気の道を通って供給されています。私の主な業務は電機システムや電路の設置、保守、整備です。図面をもとに、電路の配置を考え、電線を切断します。そして邪魔にならず、メンテナンスしやすい位置に設置し、金具を溶接して固定し、塗装まで行います。進水前の船に電機システムを導入・設置する場合は陸上に固定されている船の中で作業することもあります。既に使用されている船のメンテナンスの場合は、港で乗船して作業することが多いです。揺れる船での作業は危険を伴うこともあるので、安全第一を心がけながら、無数にある電路の繋ぎ方を間違えないよう注意しつつ仕事をしています。それだけに、一通り作業を終えて最後の試運転で問題がなかった時は、「やった！気持ちいい！！」と、大きな達成感を感じます。

—特定技能2号の試験に合格したと聞きました。

試験を受けると決めたのは、家庭を持ち、子どもを育てながら日本で暮らし続けたいという希望があったからです。昨年、広島の人に2ヶ月間派遣して頂き、そこで学科と技能の試験の準備をし、晴れて造船・舶用工業分野の特定技能2号に合格しました。広島では周囲には寮以外何もないようなところで、自分と同じような立場のベトナム人と生活しました。試験はとても大変でしたが、休みの日には同胞と料理を作って一緒に食べたりと、楽しいことも



図面を見て電路の配置を確認している様子

あったため乗り越えることができました。それに離れてみて改めて、気仙沼の暮らしやすさにも気づかされました。

—これからの目標はありますか。

技能実習生だった時に地域の日本語教室で日本語を勉強したことがあったのですが、仕事が多忙で継続することが難しくなり、休みの時に趣味のアニメや漫画をみて日本語を学んでいました。これからは漢字の勉強にも力をいれて、仕事の知識を強化していきたいと考えています。それから、特定技能2号は家族の帯同が認められるので、妻と一緒に暮らすことを楽しみにしています。妻とは今年に家族が増えたらいいねと話しています。

特定技能とは…国内で人材確保が困難な状態にある産業分野において、一定の専門性・技能を有する外国人を受け入れることを目的に創設された在留資格。その産業分野に属する相当程度の知識または経験が必要とする技能を要する業務に従事する1号と、熟練した技能を要する業務に従事する2号がある。

◆総務の石川純子さんから

2011年の東日本大震災後、造船業界も特需があり、人手不足という大きな問題に直面しました。そんな中で同業者からの紹介で、ホアンさんを初めての技能実習生として受け入れました。本人たちはきっと母国を離れて不安もあるだろうと考え、地域の日本語教室に通ってもらい、他の企業で働く同国の技能実習生と話す機会を設けたり、地域の新年会と一緒に参加したりと、職場以外にも人との繋がりや居場所ができるようにと支援してきました。

ホアンさんはいつもよく周りを見ていて、気づいた時には先回りをして動いてくれる、気遣いのできる人です。溶接の技術は社内で一番で、これからは後輩の指導もお願いしたいと考えています。ホアンさんには今後も腕を磨いてもらい、ゆくゆくはこの会社を引っ張っていくような存在になってもらえたらと期待しています。

大崎市に公立の日本語学校が開校します！

昨年10月に文部科学省から認定日本語教育機関として認定されたことを受け、大崎市に「大崎市立おおさき日本語学校」が4月に開校することが決定しました。日本語学校とは、主として留学の在留資格をもつ外国人が1年～2年ほどで日本語を学ぶための教育機関で、卒業後の進路は日本国内の専門学校や大学などです。(大崎市では就職も予定しています。)多くの日本語学校は企業や学校法人などの民間により設立・運営されており、おおさき日本語学校は、北海道の東川町立東川日本語学校に次いで全国で二番目の公立日本語学校となります。

おおさき日本語学校では、日本語を学ぶだけでなく、日本の文化を学ぶ時間を設け、地域の人々との様々な交流を通じ、日本を深く理解した人材を養成することを目指しています。この4月に第1期生として、ベトナム・インドネシア・台湾から約30名の留学生を迎えることになっていますが、将来的には100名の受け入れを目指しています。

大崎市はおおさき日本語学校を多文化共生社会の実現を推進する中心として位置づけ、これまで市民を対象とした説明会や多文化共生理解講座などを実施してきました。大崎市地域おこし協力隊として大崎市の多文化共生推進業務を行っている秋山千恵さんにお話を伺いました。

「市民のみなさんと留学生とのつなぎ役となるべく活動をしています。例えば、高校生を対象とした多文化共生のワークショップなどを実施し、昨年は高校2校でお話ししました。多くの高校生が自分の地域に留学生が来ることを歓迎していて、中には市民と留学生を対象とした交流会を開きたいとか、留学生が生活に困らないように地図アプリに必要な情報を落とし込んで提供したいなど、具体的なアイデアを考えているグループもあります。実現が楽しみです、協力をしていきたいと考えています。

今後は大崎市が実施した講座などに参加した方々が、そこで学んだことを実践する機会をつくりたいと考えています。具体的には、地域団体と連携しながら、お話ができる交流会やイベントを実施して、ボランティアが留学生と交流できるようにしていきたいです。留学生にはそのような体験を通して、大崎市、そして大崎市民に受け入れてもらったと感じて、大崎市での生活を楽しんでほしいです。」



宮城県古川黎明高等学校でのワークショップの様子

大崎市立おおさき日本語学校ホームページ:<https://www.osaki-jls.com/>



シリーズ 外国につながる子どもたちの支援について考える



第15回 MIA外国人児童生徒サポーター・日本語教師 稲村 真理子さん

高校生へのオンライン日本語学習支援

「高校生たち、がんばり屋でかわいいんですよ」という高橋亜紀子アドバイザー(宮城教育大学)の優しく前向きな言葉に背中を押されて2022年10月からオンラインによる日本語学習支援を担当するようになりました。高校生の個人指導はやったことがなく不安でしたが。

中国人の女子生徒Aさんは来日2年目で、家庭での会話は中国語と日本語。進学希望とのことで、国語の教科書を柱に始めました。担任の先生から教科書データを頂き、私が準備した資料を毎回印刷して配付しながら、語彙表現を中心に学習しました。Aさんは日本語を系統的に学習しておらず基礎項目にムラがあります。その部分は「みんなの日本語」中国語版の説明部分を提示して、自習してもらいました。でも外国語をそのような形で学習した経験がなく、部活、家業の手伝いで忙しいこともあり、日本語文法を中国語の説明を読んで理解することは難しいようでした。練習問題を日頃の聞き覚えた知識に照らして解きながらの文法理解がむしろ効果的だったようです。

パキスタン人の女子生徒Bさんは来日7年目。進学希望なので日本語能力検定試験の練習問題を柱にしました。Bさんは会話力こそありますが日本語を段階的に学習していないため知識にムラがあります。気づくたびに補強しながら今、N2、N1を目指してがんばっているところです。母語のウルドゥー語以外に4か国語の学習歴があるためか、言語や文化の違いに強い興味を持っています。日本語では特に漢字に関心があり、同じ漢字を使った単語でも日本語と中国語では意味が全く異なるものがあることを紹介すると盛り上がります。

高橋アドバイザーの助言と高校の先生方の協力で助けられて楽しく続けておりますが、日本語、日本語指導というものを新しい角度で見る機会にもなって、実は私のほうが勉強になっていると感じております。

多文化 なトピック

「みやぎ県民大学」で「やさしい日本語」の講座が開催されました

「みやぎ県民大学」において、MIAも協力のうえ、多文化共生と「やさしい日本語」をテーマとした講座が開催されました。

「みやぎ県民大学」は、県民に多様な「学び」の機会を提供するため、県生涯学習課が開催しているもので、今回は「テーマ別講座」の一つとして、＜共生社会を考える～多文化共生「やさしい日本語セミナー」～＞というタイトルの公開講座が設けられました。

当日は、社会教育に携わる方や外国人と接する機会がある方など34名が参加。MIAのスタッフが講師を務め、県内に暮らす外国人の状況を確認したあと、「やさしい日本語」について、多くのワークに取り組みながら学んでいきました。2時間の講座を終えると「やさしい日本語」の考え方に対してだいぶ理解が深まったようで、アンケートには「自分の常識を当てはめずに、1度伝えたいことを整理して伝えることが必要だと感じた」「外国人のみならず、やさしい日本語を必要としている多くの場面があると感じた」といった感想が寄せられました。

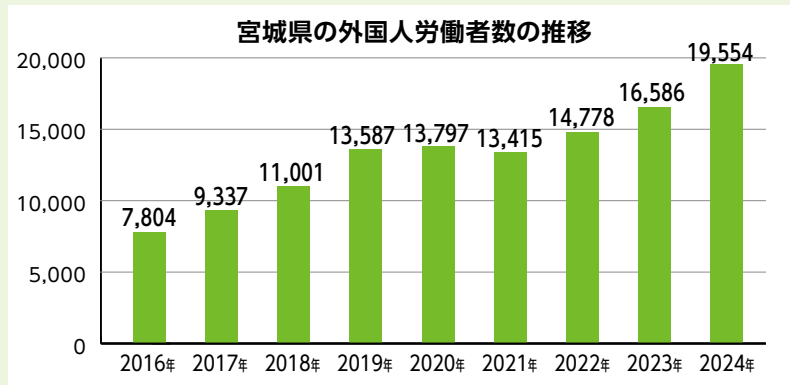
県生涯学習課では、今回の講座に合わせて、「みやぎ県民大学」や多文化共生について理解を深めるための動画を作成・公開しています。今回の講座やMIA日本語講座の様子も紹介されていますので、ぜひご覧ください。

URL : <https://www.youtube.com/@宮城県教育庁生涯学習/videos>



宮城県の外国人労働者数が過去最多を更新しました

宮城労働局は、県内で働く外国人労働者の数が過去最高の19,554人となったと発表しました。国籍ではベトナムが最も多く4,873人で外国人労働者全体の24.9%を占め、次いでネパール3,470人、中国2,215人、インドネシア2,206人となっています。前年と比べると特にネパールが806人(30.3%)、インドネシアが680人(44.6%)と顕著な増加となりました。在留資格別にみると、留学生のアルバイトなどが含まれる「資格外活動」が6,038人で、外国人労働者全体の30.9%を占め、次いで「技能実習」が5,579人(28.5%)です。平成31年に新設された「特定技能」は1,786人で、前年比686人(62.4%)と大幅な増加となりました。より詳しい情報は宮城労働局のホームページでご覧頂けます。



ライブラリー

ライブラリーのコーナーで紹介されている図書は全て貸し出しまたは当協会図書資料室で閲覧可能です。

『ゲンバの日本語 働く外国人のための日本語コミュニケーション』

著者：一般財団法人海外産業人材育成協会 発行：スリーエーネットワーク

人手不足を背景として、日本で働く外国人の数は年々増加し、これからも増え続けることが見込まれています。この教材は、主に製造業やIT業界といった職場を想定し、「ルールやマナーを共有する」「使い方について質問する」など外国人が働く現場や直面する状況に必要な日本語を学ぶことができ、日本の企業文化を理解することにも役立ちます。

「ゲンバの日本語」シリーズは基礎編、応用編のほか、製造業、IT、建設・設備業界で働くために必要なことを学習することができる、分野別の単語帳もそれぞれ出版されています。Web教材は音声、動画を視聴できるとともに、英語、中国語、ベトナム語、タイ語、インドネシア語の5言語の訳付きの語彙リスト、教師用ガイドがそれぞれ無料で利用することができます。



MIAでは、県内の学校や団体に外国人講師を紹介する国際理解教育支援事業を実施しており、2月に講師を対象とした研修会を行いました。このプログラムを利用した学校からのアンケートをもとに良かった点、改善点を講師たちと振り返りました。また、普段は他の講師がどのように国の紹介をしているのか見る機会がほとんどないため、今回はスリランカ出身のヤーパさんに実演してもらいました。ヤーパさんは、プログラムでスリランカ式の折り紙を教えていて、さっそく講師たちも挑戦！船を作りました。スリランカでは、正方形ではなく長方形の紙を使い、簡単にできるのでどの学校でも好評です。

研修会は、なかなか集まる機会がない講師同士の交流の場でもあります。今年は数年ぶりにポットラックパーティを再開し、参加した13名の講師たちが母国の料理や菓子を持ち寄り、まるで多国籍レストランのようでした。料理の紹介だけでなく、昔、日本語が分からなくて困った話や国内のおすすめスポットなどたくさん話題と笑い声が飛び交いました。MIAの外国人講師は長く住んでいる人もいればまだ来日して数年という人もいます。それぞれが違った視点で、より良い学校訪問プログラムを提供するために話し合う貴重な時間となりました。

MIAでは国際理解教育支援事業のお申込みを随時受け付けています。詳細についてはこちらからご覧ください。▶<https://mia-miyagi.jp/kokurikyoto.html>



個性豊かなMIA外国人講師たち



みやぎの国際活動団体

三本木国際交流協会 会長 伊東 仁さん

当協会は、国際交流を通じて、教育・文化・産業・経済などの交流を行い、相互の友好を深め親善に寄与するとともに、国際社会に対応できるまちづくりを推進することを目的に設立されました。旧三本木町は1998年にアメリカ合衆国ジョージア州ダブリン市と姉妹都市締結し、交流が始まりました。それ以来、学生を相互に派遣・受け入れする交流事業を中心に活動しています。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、交流は一時中断していましたが、2023年に再開し、ダブリン市に大崎市在住の高校生9名を派遣、2024年4月にはダブリン市から学生9名を受け入れました。昨年の受け入れでは地元の子もたちとの交流を行ったり、岩出山や鳴子温泉などの観光地を巡ってこけしの絵付けを体験したり、石巻市の震災遺構を訪問するなど、盛りだくさんの7日間でした。昨年は、初めて一般の市民からホストファミリーを募り、日本の生活を体験しながらそれぞれの家庭でも思い出に残る交流が行われたようです。次は2026年3月に大崎市在住の高校生をダブリン市に派遣し、現地での交流や様々な場所や施設を見学する予定です。



地元の子もたちとダブリンの学生との交流の様子

サポーターの声

インメイズインハンさん 外国人支援通訳サポーター(ミャンマー語)



MIAの初めての通訳は保健機関での検査に関係するものでした。ミャンマー人の技能実習生複数名が対象で、みんなある程度日本語ができましたので、検査自体はそれほど通訳を必要としませんでした。ですが、なぜその検査をするのかといったことまでは理解できておらず、私がミャンマー語で伝えることでよく理解でき、不安もなくなったようでした。

いま、ミャンマーから多くの若者が外国に出てきています。日本での生活が楽しく余裕があるものであればいいのですが、日本語が分からないことで不安に陥ったり、苦しんでいたりするひと残念ながらもそうなので、私には話を聞くことぐらいしかできませんが、そういった人々に少しでも寄り添えればと思っています。

一方で、私個人にとって通訳活動は知らなかったことを学ぶ機会ともなっていて、とても有意義に感じています。

賛助会員募集

MIA(公財)宮城県国際化協会は、県民参加の幅広い国際交流を進め、人と人との輪を広げていくために、皆様の御理解と御協力を求めています。



- 賛助会員の資格
本協会の趣旨に賛同し、運営活動に協力していただける個人や団体(国際活動団体、企業、機関)など
- 賛助会員の区分と年会費
個人会員/1口 3,000円
団体会員/1口 10,000円
- 賛助会員の特典
◎協会機関紙 宮城県国際化協会機関紙 倶楽部MIAの定期送付(年6回)
- ◎当協会主催のイベントや各種講座の案内及び参加費の減免
- ◎個人会員については協会と提携する旅行会社が指定する国内外の旅行代金の一部割引
- ◎企業会員については世界各国国旗の無償貸し出し、及び当協会の外国人スタッフ等による国際理解出前講座の無償提供
- 入会方法
◎本協会あて御連絡ください。
所定の申し込み用紙と振り込み用紙を送付いたします。



倶楽部 MIA vol.138

編集・発行 公益財団法人 宮城県国際化協会
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4番17号
宮城県仙台合同庁舎7階
TEL 022(275)3796
FAX 022(272)5063

E-mail mail@mia-miyagi.jp URL <https://mia-miyagi.jp>

